

イランの爆撃で人が死んでいるのに報道は石油のことばかり。それでいいのでしょうか。

軍需産業にお金が動く中私たちの生活は疲弊するばかり。それでいいのでしょうか。

トランプ大統領は何をしようとしているのか。

高市首相は何をしたいのか。

沖縄を始めとする全国のミサイル配備 米軍指揮下に組み込まれる自衛隊。

SNSでは見えてこない事実を目を向けてみませんか。

イラン戦争と 自衛隊と沖縄



島への攻撃を想定した共同訓練
陸上自衛隊のオスプレイに「負傷兵」を乗せた担架を運ぶ米海兵隊員

2023年10月石垣空港 布施祐仁氏撮影

- 牛島 貞満さん 「沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件から見えること」
- 平良 愛香さんと若者トーク
- **講演** 布施 祐仁さん (ジャーナリスト)

「激動の時代に

——いま沖縄から考える戦争と平和の課題」

7月10日(金)

《沖縄のつどい2026》

開演：18：10～20：40

(17：40開場) 事前申し込み不要

会場：明治学院大学白金キャンパス

本館1階 1101教室 定員300名

資料代：500円 (学生・明治学院大教職員無料)

主催 沖縄のつどい実行委員会

宮森・630を伝える会
ジュゴン保護キャンペーンセンター
公益財団法人原爆の図丸木美術館
ピース・ニュース
平和を実現するキリスト者ネット

共催 明治学院大学国際平和研究所

賛同 公益財団法人東京YWCA

沖縄戦首都圏の会
沖縄平和ネットワーク首都圏の会
沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック

基地がある限り、 安全な日はこない！

(キーストン提供)

米軍機のエンジン部分が
突っ込んだ6年3組の教室



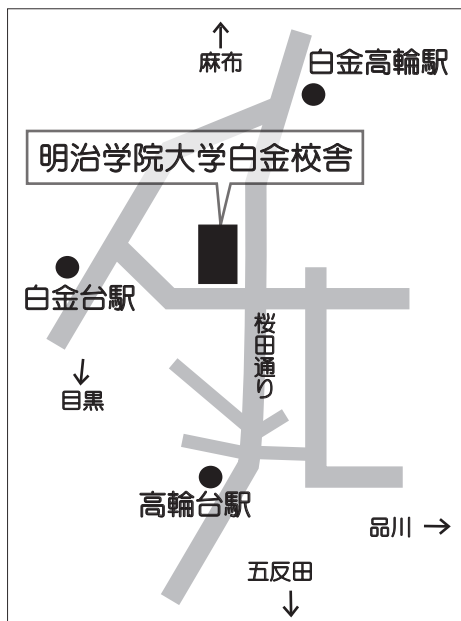
ヘリ墜落の際もまるで米軍政下時と同じように、米軍による現場の封鎖が行われました。その後も、普天間基地所属のオスプレイが名護市安部の沿岸に墜落したり、米軍機の部品が保育園や小学校に落とされたりしています。沖縄に限ったことではありません。2023年11月には横田基地所属のオスプレイが鹿児島県屋久島沖に墜落し、死者・行方不明者8人の大事故を起こしています。首都圏でもオスプレイの離着陸や羽村市の中学校の校庭へのパラシュート落下などがあり、大きな事故が起こる可能性は、日本中いつでもどこでもあるのです。

沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件

子どもたちがいる教室に、米軍機が突っ込んでくる、そんなことをあなたは想像できますか？

67年前の1959年6月30日、嘉手納基地を発進した米軍のジェット戦闘機は、沖縄県うるま市（旧石川市）の住宅地に墜落炎上し、機体の一部が宮森小学校の教室に突っ込みました。死者18名（児童11名、住民6名、さらに児童の1名が大学入学後に後遺症で亡くなる）、負傷者212名（児童156名、職員2名、住民54名）、小学校、公民館、民家25棟が全半焼。——米軍による最大の基地被害の事件です。普天間や嘉手納をはじめとする基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件が教えてくれます。沖縄の「本土復帰」から32年後、2004年沖縄国際大学米軍

会場



「白金台駅」2番出口
「白金高輪駅」1番出口
「高輪台駅」A2出口 徒歩7分

《布施 祐仁（ふせ ゆうじん）さんプロフィール》

1976年、東京都生まれ。ジャーナリスト。専門は外交・安全保障。『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たのか』（三浦英之氏との共著、集英社）で石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。その他にも、平和・協同ジャーナリスト基金賞とJCJ（日本ジャーナリスト会議）賞を受賞した『ルポ イチエフ 福島第一原発レベル7の現場』（岩波書店）や『日米同盟・最後のリスクなぜ米軍のミサイルが



日本に配備されるのか』（創元社）、『自衛隊海外派遣隠された「戦地」の現実』『経済的徴兵制』（ともに集英社新書）、『日米密約裁かれない米兵犯罪』（岩波書店）など、著書多数。最新刊は、『従属の代償 日米軍事一体化の真実』（講談社）。また、YouTube番組「デモクラシータイムス」等やオンラインメディア、講演会への出演も多い。